

東京音楽大学附属民族音楽研究所刊行物リポジトリ

Title	ジャワ研修 2024（ガムラン演奏と舞踊）報告ーインドネシア国立芸術大学 ISI スラカルタ校における授業&公演等ー
Title in another language	Staff Report on Study Program (Gamelan and Dance) in Java 2024 - Classes at the Indonesian Institute of the Arts ISI, Surakarta and Performances etc. -
Author(s)	樋口文子 (HIGUCHI Fumiko)
Citation	伝統と創造=Dento to Sozo, Vol. 14, p. 41-48
Date of issue	2025-03-26
ISSN & ISSN-L	Print edition: ISSN 2189-2350, Online edition: ISSN 2189-2482, ISSN-L 2189-2350
URL	https://tcm-minken.jp/publication/IE_B14202404.pdf

ジャワ研修 2024(ガムラン演奏と舞踊) 報告
 —インドネシア国立芸術大学 ISI スラカルタ校における授業&公演等—
 Staff Report on Study Program (Gamelan and Dance) in Java 2024
 - Classes at the Indonesian Institute of the Arts ISI, Surakarta and Performances etc. -

樋口文子 HIGUCHI Fumiko

2024年8月26日から30日にかけて、インドネシア共和国中部ジャワ州スラカルタ Surakarta (通称ソロ Solo) 市の国立芸術大学 Institut Seni Indonesia (ISI) において、本学学生を対象とした短期留学プログラムとして、また卒業生や社会人講座生等の社会人を対象として、ガムラン演奏とジャワ舞踊の現地研修を行った。ガムラン合奏、ジャワ舞踊のグループ授業や個人レッスンのほか、当該大学講師陣によるガムランと舞踊のコンサート、マンクヌガラン Mangkunegaran 王宮における舞踊練習見学、世界遺産観光等を企画した。この報告書はそれらの内容を記録したものである。

キーワード: インドネシア Indonesia、ジャワ Java、ガムラン Gamelan、
舞踊 Dance、研修 Study program

1. はじめに

本学に於いて、主に学生及び社会人講座生を対象とするガムラン研修は、1990年代より断続的に行われてきたが、2020年以降はコロナ禍により催行を控えており、本年度は2019年に続いて5年ぶりの開催となった。今回も本学における「ガムラン短期留学プログラム」として、学生のほか卒業生や社会人講座生が参加し、同時に一般参加が可能なイベント¹「ジャワ・スラカルタ現地研修」として沖縄からの学生や一般のグループ等の参加もあり、総勢56名が参加する大規模な海外研修となった。

同行者は筆者および本学ガムラン講師の木村佳代氏、ジャワ舞踊講師の針生すぐり氏、主催団体である NPO 法人日本ガムラン音楽振興会代表の村上圭子氏、現地滞在中の留学生である岸美咲氏の5名で、同行者は授業やレッスン、観光の通訳等を行うほか各種のアテンドを担当し、プログラムは全て滞りなく終了した。

現地大学内で研修が実施されたのは、2024年8月26日(月)～30日(金)の5日間で、インドネシア国立芸術大学 ISI スラカルタ校にて、ガムラン合奏授業(入門、初級、中級、上級の4クラス)と舞踊授業(舞踊別4クラス)、他に希望者によるガムランパートの個人レッスン等が行われた。また、28日午前はマンクヌガラン王宮にて生演奏による当王宮様式の舞踊練習の見学、同日夜には国立芸術大学内の伝統的なイベント会場プンドポ Pundopoにて、本学教材の収録を兼ねた公演(担当講師陣による模範演奏と舞踊の鑑賞会)を開催した。最終日となる30日には先生方への感謝の気持ちを込めて懇親会が開かれ、本学学生が日本の伝統芸能を披露した。

またオプションとして研修期間の前後に世界遺産観光を企画した。8月25日はジョグジャカルタ近郊のプランバナナ・ヒンドゥー教寺院遺跡、31日にはボロブドゥール・仏

教寺院遺跡を訪れることができた。どちらの観光にも 25 名程度が参加した。コロナ禍の影響が残っており見学は日程が限られたうえ人数制限を設けた時間制であったが、幸運にもインドネシアを初めて訪れる本学学生を含め希望者全員が見学することができた。

以下、個々に研修の内容を記録する。

2. ガムラン合奏授業

ガムラン合奏授業は、入門クラス 2 回、初中級クラス 2 回、学生中心クラス 2 回、中級クラス 2 回、上級クラス 2 回（1 回 120 分）の計 10 回行われた。以下に、それぞれのクラスの指導者と課題曲等を簡潔に記載する。

2 - 1. 入門クラス（2 回）

指導者：ダルノ Darno 氏、シギツ Sigit Setyawan 氏

課題曲：「マニャル・セウ」、「ダヨエ・トゥコ」

Lcr. Manyar Sewu, pl.br.、Lcr. Dhayohe Teka, sl.mnyr.

参加者：約 25 名

2 - 2. 初中級クラス（2 回）

指導者：スヨト Suyoto 氏、ナナン Nanang Bayu Aji 氏

課題曲：「プスポギワン」、「キナンティ・サンドウン」

Ktw. Puspagiwang, pl.br.、Ktw. kinanthi Sandhung, sl.nem

参加者：約 25 名

2 - 3. 学生中心クラス（2 回）

指導者：ワワン Bambang Sasadara 氏、グル Guruh Praba Pramana 氏

課題曲：「アユン・アユン」 Ldr. Ayun-ayun, pl.nem

参加者：約 10 名

2 - 4. 中級クラス（2 回）

指導者：スラジ Suraji 氏、ウイドド Sri Eka Widodo 氏

課題曲：「ムギラハユ」

Ldr. Mugirahayu, sl.mnyr.

参加者：約 25 名

2 - 5. 上級クラス（2 回）

指導者：スウィト Suwito 氏、アジ Ananto Sabdo Aji 氏

課題曲：「ロロ・ロロ・トペン」

Ldr. Loro-loro Topeng, sl.mnyr.

参加者：約 15 名

3. ジャワ舞踊授業

舞踊の授業は、舞踊別に4クラス、各1～3回行われた。今回も指導者が2名ずつ付き手厚い指導が行われた。

3-1. Aクラス (2回)

指導者：マハラニ Maharani Luthvinda 氏、ダマスト Irwan Dhamasto 氏

舞踊：「エンガル・エンガル」Tari Enggar-enggar

参加者：約20名

3-2. Bクラス (2回)

指導者：スティヨ Setya Asih 氏、ラフマニ Dwi Rahmani 氏

舞踊：「スリンピ・ゴンドクスモ」Srimpi Gandakusuma

参加者：約20名

3-3. Cクラス (3回)

指導者：ダルヨノ Daryono Darmorejo 氏、ワフユ Wahyu Santoso Prabowo 氏

舞踊：「パンジ・トゥンガル／スプー」Tari Pangi Tunggal/Sepuh

参加者：約20名

3-4. Dクラス (1回)

指導者：ヌルヤント Nuryanto 氏、ユリア Rambat Yulianingsih 氏

舞踊：「ラントヨ Rantaya」(女性、男性優形)

参加者：約20名

4. 個人レッスン等

前回同様に、希望者がガムラン演奏の特定のパートを学ぶ個人レッスンを受けられるよう準備した。合奏授業だけでは習得不可能な難易度の高いパートを学ぶためのもので、今回は9名の希望者に延べ21回のレッスンが行われた。時間は1回50分とし、ひとりあたりの回数については、課題曲の規模を配慮して最大4回受けられるようにした。レッスン対象の楽器は、ボナン Bonang、ルバブ Rebab、グンデル Gender、シトゥル Siter、中太鼓チブロン Ciblon、そして女声の独唱シンデン Sindhen、男性の斉唱ゲロン Gerong であった。また遠方のグループ参加者の要望によりグループ合奏レッスンも2回行った。

5. 見学、公演鑑賞等

5 - 1. マンクヌガラ王宮と大プンドポ定期舞踊練習（生演奏付き）見学

日時：8月28日（水）10:00-12:00

場所：マンクヌガラ王宮内（日本語ガイド付き）

当日の大プンドポ定期練習演目（自由見学のため記録動画なし）：

演奏「グルンドウン」 Gd. Bng. Glendheng, pl.5

舞踊「スリンピ・ムンチャル」 Srimpi Muncar

「サンチョヨ・クスマウイチトロ」 Tari Sancaya Kusumawicitra

5 - 2. 国立芸術大学ISIスラカルタ校講師陣による模範演奏&舞踊公演鑑賞会²(写真参照)

日時：8月28日（水）19:00-22:30

場所：国立芸術大学 ISI スラカルタ校大プンドポ

演目、主な演者等：

演奏「ウィルジュン」 Ldr. Wilujeng, pl.br. (Kd:Bp.Suwito)

演奏「マニヤル・セウ」 Lcr. Manyar Sewu, pl.br. (Kd:Bp.Darno).

演奏「ダヨエ・トゥコ」 Lcr. Dhayohe Teka, sl.mnyr. (Kd.:Bp.Darno).

舞踊「スリンピ・ゴンドクスモ」 Srimpi Ganda Kusuma (Penari:Adelina, Gabby,Dyar, Imas, Rb:Bp. Suraji, Sd:Bu Rini)

演奏「プスポギワン」～「マカルヨ」 Ktw. Puspagiwang, kal.Lcr.Makarya, pl.br. (Rb: Bp.Nanang, Kd:Bp.Sri Eko Widodo)

舞踊「パンジ・トゥンガル/スプー」 Tari Panji Tunggal/Sepuh (Penari: Bp.Daryono, Rb:Bp.Danis, Kd:Bp.Bambang)

演奏「ムギラハユ」～「キナンティ・サンドウン」 Ldr.Mugirahayu, kal. Ktw.Kinanthi Sandhung, sl.mnyr. (Rb:Bp.Suraji, Kd:Bp.Sri Eko Widodo, Sd:Bu Siswati)

舞踊「エンガル・エンガル」 Tari Enggar-enggar (Penari:Bp. Dhamasto, Bu Maharani, Rb:Bp.Suraji, Sd:Bu Parsih)

演奏「アユン・アユン」 Ldr.Ayun-ayun, pl.nem (Kd:Bp.Bambang)

演奏「ロロ・ロロ・トペン」、「アヤアヤアン・パムンカス」 Ldr. Loro-loro Topeng, Ayak-ayakan Pamungkas,sl.mnyr. (Kd:Bp.Suwito)

[付記]

研修では毎回、本学の教材動画収録を兼ねて、先生方が各授業で担当された課題曲の模範演奏と、衣装付きの課題舞踊演目を併せて、公演を依頼している。研修参加者は教育的な配慮で特別に、ステージ上、つまり楽器のすぐ近くで鑑賞することが許されている。また今回も合奏エリアのすぐ前に舞踊の研修生が鑑賞するエリアを作り、模範の舞踊は楽器と研修生のほうを向いて踊っていただくようにした。これにより、今回も全ての研修参加

者がガムラン演奏のすぐ近くで舞踊を正面から鑑賞することができた。また舞踊の録画は楽器側にカメラを設置するため、よりはっきりとした伴奏が収録でき、舞踊映像は背景が暗くなり楽器や演奏者が背景に映らないことで、より舞踊の動きが見やすくなった。今後も本学主催の場合は恒例にしていこうと思う。

舞踊は、一部を除き今回もベテランの先生方をお願いした。本場の先生方の生演奏をバックに、授業で指導して下さった先生が衣装を着けて目の前で踊ってくださるのを鑑賞する素晴らしい機会であった。記録録画は教材として有意義に使用している。

ひとつだけ反省点として挙げたいのが PA（音響機器）音量バランスである。前回までは気にならなかったのだが、今回の PA 担当者は女性歌手シンデンや弦楽器シトゥルをかなり高く設定しており、現地で聴いていた時には各楽器からの音が聴こえたが、後日前方のビデオカメラで録音したものを確認したところ、スピーカーからの音量が大きく、各楽器間の細かいセッションが聴こえづらくなっていた。現地で販売されている CD や、結婚式等のイベントではよくこのようなバランスでガムラン演奏を聴かせており、実はこれが学習者にとっては非常に厄介で、繊細な音色や細かい奏法の楽器を学習する人が、現地で販売されている音源を参考にできない理由のひとつである。今回3方向から記録しており、筆者も木村氏も個人的に録音をしたものがあるため大きな支障はないが、次回はスピーカーからの音量をもっと落としてもらい、なるべく多くの楽器の音が同時に聴こえやすいよう生音（なまおと）に近い状態に整えてから録画を始めるようにしたい。

6. 観光³（世界遺産見学）

6-1. ジョグジャカルタ近郊世界遺産 プランバナ寺院遺跡見学

日時：8月25日（日）午後

場所：プランバナ・ヒンドゥー教寺院遺跡

参加：約25名

6-2. ジョグジャカルタ近郊世界遺産 ボロブドゥール寺院遺跡見学

日時：8月31日（土）午後

場所：ボロブドゥール・仏教寺院遺跡

参加：約25名

バスが大型で小回りが効かないことや、昨今のインドネシアの情勢（急速に個人所有の乗用車が増えて頻繁に渋滞が起こる）、さらに旅行会社側の手違いなどが重なり、予定していた時間に間に合わない可能性があった。特に帰路の観光後、空港への道が混んでおり、空港に到着する時間が大幅に遅れてしまったため、参加者は大急ぎでチェックインをして搭乗ゲートへ走ることになってしまった。次回は念入りな確認作業と更に余裕のあるスケジュール立てを心掛けたい。

7. おわりに

今回も日本、インドネシアにおいて多くの方のご協力を賜り、無事に全てのプログラムを終えることができた。本学からは録画教材の費用および研修授業料の各一部を助成していただいた。

依然として続く新型コロナウイルス感染症対策や戦争等の世界情勢により、航空券の値段が世界的に上がっていることに加え、日本の円安に反してインドネシアの物価が年々上がっている状況だ。今回は、前回同様の研修プログラムでは値上がり幅が大きくなりすぎることが計画段階で明らかになり、授業の時間割やイベントなどすべての面において再考の必要が生じた。一日あたりの授業時間を少し減らし、王宮の公演チャーターを練習見学に切り替えるなどしてまず基本の予算を抑えた。世界遺産観光については、催行条件が厳しく中止の可能性があったが、初めてインドネシアを訪れる本学の学生達が楽しみにしているため、オプションとして組み入れた。幸運なことに予定していた日程が直前に見学可能となり、相談していた旅行会社の協力もありチケットが取れて開催となった。また滞在先については、感染症対策を含む衛生面を考慮しホテルのグレードは下げず⁴、体力維持のため全員朝食付きで予約した。期間中の現地大学滞在時間については、授業終了時刻を早めてホテルでの休息や睡眠時間をなるべく確保できるよう、時間割を見直した。

6月に参加申し込みの受付を開始したのだが、5年ぶりということもあってか、56名という過去最高の人数で催行が決まり、本学の参加学生も例年より多く、親子で参加する学生も現れた。インドネシア滞在経験のある参加者やリピーターの社会人講座生、現地の別大学で研鑽を積んでいる留学生の気配りや協力が助けられ、初めての人も安心して伸び伸びと参加できたと思う。後半になると疲れも出始め若干数の体調不良者が散見されたが、全員が予定通りのフライトスケジュールで帰国できた。そして秋の本学芸術祭では、学生達が演奏、舞踊とも本学授業課題のレベルを超えた発表を行い、大変好評を博した。今回ジャワ舞踊に興味を示す学生が多かったことも付け加えておきたい。

今回の研修は、2019年8月28日に本学とISIスラカルタ校がガムラン教育において提携調印されてから初の研修であった。今後も続けていきたい。

注：

- 1 主催は、前回と同じくNPO法人日本ガムラン音楽振興会（筆者および木村佳代氏等が理事を務める）。
- 2 この公演を3方向（前方右、左、後方）から撮影した動画およびスラジ氏が書き下ろしてくださった楽譜集が教材として納品された。
- 3 見学チケット購入とバス等の手配は前回同様に、日本人女性が運営するジョグジャカルタの旅行会社「BBTトラベル」に相談、依頼した。
- 4 ホテル・ソロ・ロイヤルスラカルタ・ヘリテージ Hotel Solo Royal Surakarta Heritage に滞在した。

添付資料



写真 先生方と ISI スラカルタ校の大プンドポにて 2024年8月28日筆者撮影

From 26 through 30 August 2024, we conducted a short-term study abroad program for our students, as well as graduates and adult learners, in and around Surakarta (commonly known as Solo) in Central Java, Indonesia. The program included group and individual lessons in gamelan ensemble and Javanese dance, we organized concerts featuring the institute's instructors, observation of dance practices at the Mangkunegaran Palace, and tours of world heritage sites. This report presents details of the activities offered for the participants.

本研修は、東京音楽大学付属民族音楽研究所 2024 年度ジャワ研修費助成を受けたものです。
(本学講師、ガムラン)

